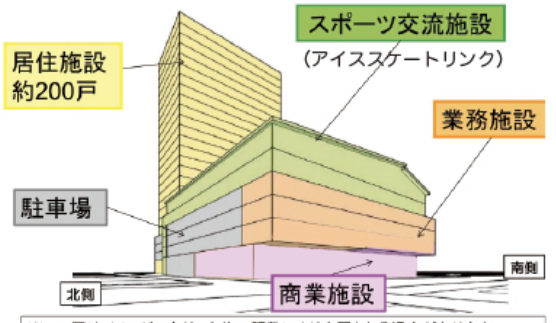
コンパクトシティの見直しを

赤星市議
予算案反対討論
一般会計予算 1679 億円

中央通りD北地区市街地再開発事業

24 階建・184 億円
うち補助金 76 億円



※この図はイメージであり、今後の調整により変更となる場合があります

↑当初よりもすでに４年遅れている

「中央通りＤ北地区市街地再開発」計画
中央通り商店街の西の入り口北側に計画
延べ床面積約４万 3800 ㎡、地上 24 階・地下１階建て
分譲マンション、アイススケート場、商業施設、駐車場など
イメージ図（富山市を通して準備組合（当時）提供 2018 年）

立山さえぎる高層マンション、スケートリンク…

巨大再開発をまだ続けるのか

前市政の19年間に10か所の市街地再開発ビルが建設され、総事業費約８３０億円、国・県・市の補助金とガラス美術館・図書館など公共施設用の床を買うお金（保留床取得金）など合わせて約４４０億円の税金が投入されてきました。再開発で多くのマンションが建設されましたが、街は「活性化」したでしょうか。

「中央通りD北地区市街地再開発事業」は新年度に補助金12億円が計上されましたが、総事業費約１８４億円、補助金総額は約76億円に上る見込み。当初は昨年完成予定が４年遅れています。

スケートリンク、採算は？

再開発ビルにリンクを整備するには床を買い取る莫大な資金も必要です。後から国や自治体の大きな負担になっては市民の理解が得られません。

赤星議員の討論動画

政務活動費不正

返還求める住民訴訟

画期的な一審判決　市長が控訴

政務活動費の不正発覚から6年半余り。この間、約４年間にわたる「市民の会」が起こした住民訴訟の判決が３月２日にありました。

この裁判は、住民監査請求で市監査委員が「不当」と認めなかった案件について不服として、富山市長を被告に、不当利得返還請求権を行使するよう求めた裁判です。

判決では、合計約１４１万円と年５分の利息の支払いを富山市長が自民会派に求めるよう命じました。さらに、５年経ったら不正でもお金が返せない地方自治法の「時効」ではなく、「時効」になったとしても不正を認めた側が自主的にお金を返還できる民法の時効10年が適当という、全国初の画期的な判決です。

赤星市議の質問に藤井市長は、「主張した時効が認められなかったのは残念」と答弁し、その後控訴。

裁判所が不正と認めお金を返還させるよう命じたのに、不正議員を擁護するかの姿勢は、おかしいのではないでしょうか。

赤星議員の質問動画

財政調整基金 97億円

1年で 10 億増 ―コロナ禍でも過去最高額

使い道自由の「財政調整基金」が過去最高額になっていることが、赤星市議の総務文教委員会質疑で明らかになりました。

赤星市議は反対討論で「コロナ禍でも市民税収入が回復している。市民が納めた税金は市民の命と暮らしを守るために、最優先に使うべき」と主張しました。

コロナ前の計画見直しを

赤星市議は反対討論で「大規模な開発ではない持続可能なまちづくりへ。市民の宝物、雄大な立山連峰の眺望をこれ以上遮る高層建築物を規制すべき。人口減少、将来世代に老朽化した高層マンションの解体などに再び多額の税金投入されることのないよう、コロナ禍を機に大胆な見直しが必要ではないでしょうか」と呼びかけました。

フラワーハンギングバスケット

H19から 15年で8億円超

年間6400万円

中心市街地のフラワーハンギングバスケットは２５２カ所で６４００万円。１カ所当たり約25万４千円。今年度より50万円増え単価も2千円上がりました。さらに富山駅前広場は18カ所で７００万円。１カ所当たり約38万円。15年間の総額は約８億２５００万円にのぼります。

一方、富山駅前から城址公園前交差点までの歩道と中央分離帯の花壇は剪定と刈込み年２回で年間２５０万円、四季折々に花を咲かせ葉が色づく21種類の花木が植え込まれた松川・いたち川の歩道沿いの植栽の手入れは年間９８０万円です。

赤星市議は反対討論で「なぜ富山市が『ヨーロッパの街並みのよう』である必要があるのか？」と問いかけ。富山らしい美しいまち、歩く人が下から裏側を見上げるような高いところという発想から離れて、もっと自然に眺められる、気軽に手の届く方法に見直しを求めました。

学校給食費

市予算の0.1%
1.5億円補助で
値上げストップを

市は食材料費などの値上がりで「必要な栄養価の摂取基準を満たすことが難しい」として４月から学校給食費を月５００円値上げし、小学校が５８００円、中学校は６８００円に（年間10回集金）。総額では約１億４７００万円の値上げになります。

赤星市議は一般質問で「あらゆる物価上昇の一方、実質賃金は低下し市民生活が圧迫されている。必要な分を市が補助すれば値上げ中止できる」と求めました。また、子育て支援のため全国でも広がっている給食費無償化も提案。藤井市長は、食材購入費への補助も無償化も考えていないと答弁しました。

家庭ごみ有料化

「ありき」でなく発生抑制策を

新年度予算で富山市は「家庭ごみ有料化推進事業」を盛り込みました。

赤星市議は当初予算案の反対討論で「ごみの排出量を減らすには、コロナ禍に市民に負担増の「有料化」ではないはず。ゼロウエイストを目指し、いかにゴミとなるものの発生を抑制するかです。量り売り、再利用可能な容器を使った商品のループ、デポジット製など、市民や事業者とともに調査研究すべき」と述べ、家庭ごみの有料化推進に反対しました。

自民２会派が賛成討論し、他会派も賛成しました。

池多・三熊 古洞自然活用村

来年3月で廃止方針を発表

３月定例会の経済環境委員会で、市当局は「古洞の森自然活用村」について、令和５年３月末で廃止するとの方針を発表しました。この件は議会への報告事項で、議会として議決はしていません。

現在、年間三千万円余の委託料で民間事業者が運営しています。今後は市は一切のお金は出さず、民間業者に「譲渡または貸与して」リニューアールを検討するとしています。

市議会開会の直前、市は池多地区自治振興会に報告に来ましたが、池多地区から何もかもなくなるという印象は拭えません。今後、何らかの形で施設を存続させるために、市に努力を求めていく必要があります。

高齢者 ふれあい入浴券

利用拡大が実現

吉田市議は一般質問で「ふれあい入浴券」が、婦中と山田地域が旧６町村エリアで利用できない状況の解決を求めました。

岡地聡市民生活部長は八尾地域を除き問題を解消し、「古洞の湯」も対象に加えたと答弁。

岡地部長は、旧・富山市も含めた全市的な統一的運用については、浴場関係者と引き続き協議していくと述べました。